

# 「実習前 CBT 日本看護系大学協議会版運用システム試行ワーキング」

## 1. 構成員

### 1) 委員

座長：叶谷由佳（横浜市立大学）

委員：吉沢豊子（東北大学大学院）、荒木暁子（東邦大学）、西村礼子（東京医療保健大学）、  
西川浩昭（聖隷クリストファー大学）、高橋良幸（東邦大学）、友滝愛（東海大学）

## 2. 趣旨

2021年度に作成した「新たな感染症の時代の看護学教育検討特別ワーキング」答申書において、1)の諮問事項：看護学臨地実習に関する現状における課題の整理・それを踏まえた新たな臨地実習の枠組みの作成に取り組んだ政策班は、解決策として、タスクの1にCBTの導入と普及を掲げた。そして、これらを実現の方向に導くためにCBTサブワーキングを立ち上げた。サブワーキングメンバーは、看護学共用試験の導入の提案：JANPU-CBT実証事業の試みを報告書にまとめ、2022年3月27日のJANPU報告・研修会において、JANPU-CBT事業の概要を報告した。ここでは、CBT(Computer Based Testing)を行うシステムに文部科学省が開発しているCBTシステム(MEXCBT)の採用を許可されたこと、MEXCBTに搭載する問題においては、実施時期、協力校・学生の確保、MEXCBTの運用マニュアル、実施要項の作成など諸々を2022年度に持ち越す形で動きだした。

2022年度は、JANPU-CBTの実装と今後の取り組みの検討を行い、参加校の協力を得てJANPU-CBTの実証を3回行った。1年間の活動を報告する。

## 3. 活動経過

時系列でのワーキンググループの活動報告を示す。

JANPU CBT実証試験 スケジュール(案)

2022/07/28版

	3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		
	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬													
<b>1 試験問題搭載</b>																											
1) 試験問題選定(サブWG)																											
2) 文科省との搭載方法の交渉・確定(サブWG)																											
3) JANPUから文科へ問題渡し(サブWG)																											
4) 試験問題搭載作業(文科省委託業者)																											
5) 動作設定・確認・修正																											
<b>2 CBT実証</b>																											
1) 運用ルール策定(サブWG)																											
2) JANPUの管理体制構築																											
3) JANPU理事会 事業案(最終案)の審議																											
4) 実証校の公募																											
5) 実証校の確定																											
6) 実証準備(JANPUがやること)																											
① MEXCBTと実証用eポータルへJANPUが設置者登録																											
② 実証用学習eポータルよりアカウント通知を授受																											
③ 実証校から学生IDをエクセルデータで授受																											
④ 学生IDを実証用学習eポータルへ入力																											
⑤ アカウントを実証校へ配布																											
⑥ 試験実施要項の作成(サブWG)																											
⑦ 試験実施要項の配布																											
8) 実証試験の実施(試験問題の配信)3回																											
9) 当日の問い合わせへの対応等																											
<b>3 実証検証</b>																											
1) 結果データ整理																											
2) 実証校からの報告とりまとめ・ヒアリング?																											
3) 2回目へ向けて改善事項の確認																											
<b>4 報告書の作成</b>																											
1) JANPU特別WGの報告(サブWG)																											
① 報告書案の作成																											
② 理事会資料、総会資料の提出																											
2) 実証事業報告書の作成																											
3) 文科への報告書の提出(2/??)																											

2022年3月の時点で、JANPU-CBT実証事業を年3回行うことを見越し、3月より旧WGメンバーで、実施要項（案）などの作成に取りかかった。

- 1) 第1回実習前 CBT 日本看護系大学協議会版運用システム試行ワーキング（以下、CBT ワーキング）を2022年8月4日（木）に開催した。旧WGメンバーに加え、2名の新メンバーが加わり、CBT ワーキングがスタートした。3回の実証日を第1回目9月27日（火）、第2回目2月21日（火）、第3回目3月23日（木）と決定し、実証校公募期間を8月5日～26日までとして、9月、2月、3月の参加実証校は8月29日（月）第2回CBT ワーキングで決定することとした。また、MEXCBTの搭載問題の確認をメンバー全員で行い、MEXCBTの文部科学省CBTシステム（MEXCBT）運用サポートであるオンライン学習システム推進コンソーシアムへ修正作業を依頼した。
- 2) 第2回CBT ワーキングを予定通り、8月29日（月）に開催し、参加実証校を決定した。13校の大学からエントリーがあった。全国ブロック別では、中国地区を除いたすべてのブロックから応募があった。9月実証校6校、2月実証校2校、3月実証校5校であった。9月の実証までには、既に1か月を切っており、2022年JANPU-CBT実証事業（試行版）実施要項の完成を急ピッチで進めた。加えて学生用簡易マニュアルを作成した。今後に向けてWGの事業がスムーズに運ばれていくように、問題作成関係（荒木委員・西村委員・友滝委員）、実施責任（吉沢委員・西村委員・事務局）、IRT理論による分析ソフトを購入しテスト結果の問題分析（西川委員）、実証評価に関するアンケート作成・評価（高橋委員）に役割分担した。
- 3) JANPU-CBT実証事業（試行版）第1回9月27日（火）  
【目的】多くの看護系大学の各領域臨地実習前のあらゆるレベルの学生に適用するために、運用を試行し、CBT運用の体制・運用の方法・運用実施の時期・管理運用についての検討、【位置づけ】令和4年度文部科学省委託事業「CBTシステム（MEXCBT）の拡充・活用推進、教育データの利活用推進事業」（文部科学省CBTシステム（MEXCBT）の拡充・活用推進事業）～MEXCBTの開発・運営等事業の一環として実施、【対象校・対象者】JANPU会員・看護系大学の各領域臨地実習前の学生（想定：3年前期・後期セメスタ直前の学生）としていた。9月の第1回目は、6校が実証校として参加した。この試行の目的は、あらゆるレベルの学生に適応するという点であったが、夏休み中の大学もあり、学生に強制はかけられないとして全員参加にならない大学が多く、予定数参加者数の50.1%に留まった。あらゆるレベルの学生の参加となっている背景には、問題の適切性を評価する項目反応理論に基づく分析が関連しているが、9月の実証校参加率では分析に偏りが生じるとの課題が明らかになった。また、CBTを行うための環境整備をどのように行うかも課題であった。事前のMEXCBTへのログインテストを含む動作確認の実施、CBTを何で実施するか、大学設置のPCか、個人のノートPCか、大学貸与のPCで行うかなど課題である。維持費、設備維持の問題から大学内にPCを設置する大学は減少して、BYOD（Bring Your Own Device）に切り替えていることから、試験中などPCトラブルに各大学が対応しきれないこともあり、今回においてもPCのフリーズ、スリープ状態になる。ネットワークトラブルなど散見されており、CBTを実施できる環境整備を進める必要、このようなトラブルにも実施要項がある程度対応できるようにすることが必須あることが明らかになった。いくつかの浮かび上がった課題を2月、3月の次の実証に役立てることになった。
- 4) 第3回CBTワーキングを10月18日（月）に開催した。ここでは、主に9月27日に行われた実証事業について、実施したアンケートを基に今後の課題を抽出した。課題については、既に前述したとおりであるが、今回初めて行ったCBT実証事業について、なぜ必要であるかをもう少し看護系大学の社員、教員に知らせる必要性とさらに9月にはできなかった実施説明会を2月、3月の実証校に行きことで、運用がスムーズにできるように図ることとした。

5) 文部科学省との JANPU-CBT 実証事業 情報交換会の開催

令和4年度文部科学省委託事業「CBTシステム(MEXCBT)の拡充・活用推進、教育データの利活用推進事業」(文部科学省 CBTシステム(MEXCBT)の拡充・活用推進事業)～MEXCBTの開発・運営等事業の一環として実施したこともあり、9月27日の第1回 JANPU-CBTでは、実証参加校1校に文科省からの第1回調査として文科省職員が現地見学を行った。MEXCBTは、初等・中等教育において文科省は積極的に進めている事業であるが、大学活用は初めての試みであることから、現地見学に至った。これを受けて、10月24日(月) JANPU、実証校(見学校)、オンライン学習システム推進コンソーシアム、文部科学省において情報交換会を行った。JANPU側は、今回の第1回を踏まえて、MEXCBTの活用法と不備の改善点の要望を行った。

6) 第4回 CBT ワーキングは、11月10日(月)に実施した。主に議題としては3つ、9月の実施を踏まえての実習要項の見直しと修正箇所について、新たな学生マニュアルの作成を行った。2月・3月の実証に向けての公開説明会のプログラムについて検討を行った。説明会の実施日を12月20日(火)とし、公開説明会は会員校全体が参加できること、2・3月実証校は必ず参加すること、12月20日(火)に参加できない2・3月実証校教員がいる場合は、限定オンデマンドとして必ず視聴を促すように働きかけることを申し合わせた。最後、問題作成グループから準備状況について説明があった。課題として、何を到達・目標・基準として作成すべきなのか。参考とすべきカリキュラムは何なのかなど決めることは山積みである。①問題のタイプによって試験問題を例示し、作題を提案すること、②CBTの試験問題の質担保という観点からIRTの結果からどのように評価・改善していくのかというサイクルの提案をすること、③問題タイプから作題基準を作成していくこと、④問題プールの仕組みの提案により作題・体制・評価の仕組みの提案につながるということを示した。

7) 2022年12月20日 JANPU-CBT2月・3月実証校説明会および「看護学教育における共用試験導入の意義」講演会を実施した。鎌倉代表理事の挨拶、「JANPU-CBTの目的と趣旨説明」を叶谷座長が、続いて講演「看護学教育における共用試験導入の意義」を北村聖東京大学名誉教授、2月・3月実証校への説明を西村委員が実施した。ウェビナーでの実施であったが、申し込み者251名、申し込み校数145校であった。

8) 第5回 CBT ワーキングを2023年1月12日(木)に実施した。問題作成グループの西村委員、友滝委員から、「CBTの機能による実現可能な問題のタイプ」「アセスメントの段階による問題例示・作問方法」および「CBT方式による試験問題の質保証のサイクル」というような内容の取り組みについて情報共有した。2月 CBTの実証について確認をした。

9) JANPU-CBT 実証事業(試行版)第2回を2月21日(火)に実施した。2校が実証校として参加した。説明会が行われたことから、環境の不備、運用上のトラブルはなかった。しかし、予定参加数を下回る実証校があり、ここでも目的で示すあらゆる学生の参加はかなわなかったものの、受験率は70.9%であった。学生アンケートからは、知識も測定として7割が適切であるとの意見であり、CBTの難易度は普通からやや難しいとの回答が9割であった。第1回の9月の学生アンケートにおいても同様の結果が得られていた。

10) 第6回 CBT ワーキングは2月21日(火)に実施した。2023年度に向けての準備について話し合いを行った。2023年度の JANPU-CBT 実証事業の開催の決定(2回実施)および、CBTシステム MEXCBTの使用許可の文科省との交渉について取り決めた。3月25日(土) JANPU 説明会・報告会では、CBT ワーキング今後の予定と CBT のサステナビリティと題して、報告することを決めた。

1 1) JANPU-CBT 実証事業（試行版）第 3 回を 3 月 23 日（木）に実施した。5 校が実証校として参加した。受験率は 67.5%であった。第 3 回においても受験予定者数よりも下回る受験者数となり、受験率をどのように上げていくかが課題として残った。実施運営においては、第 3 回においては大きなトラブルはなく無事に終了した。

#### 4. まとめと今後の課題

2022 年度 CBT ワーキングは、実績作りのために 3 回の CBT 実証事業を展開した。13 校の大学がエントリーし、予定通り 9 月、2 月、3 月と実施した。運用上では、実施要項がしっかり作り込みされていることもあり、回を重ねる毎にトラブルは少なくなった。実証事業参加校は、ネット環境、デバイスの準備などにおいて、CBT 受験のための条件が整っていることで参加頂いていたが、それでも、CBT 終了後の責任者、担当者アンケートにおいて、ネット環境やデバイスの準備などの問題点を指摘していた。このようなことから、CBT 参加校を増やすためには、インターネット環境やデバイスの準備等においては、効率的な実施に向けて検討していかなければならない問題であることが明らかになった。

また、もう一つの問題として、実証事業参加校の学生全員が参加するには至らなかった。これにより問題の質分析にはまだ至っていない。参加大学の学生全員が受験できるようにすることが今後の課題である。CBT の実現と継続を目指すにはあらゆる大学のあらゆる学生の全員参加が必要である。問題作成の方法、良問のプールが必須だからであり、各看護系大学のご理解とご協力が必要である。

#### 5. 資料

資料の提示なし